様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２４４６

研究課題名（和文）台南文学の研究―日本統治期の台湾人作家を中心に

研究課題名（英文）The Literature in Tainan by Taiwanese under Japanese Colonial Rule

研究代表者
大東　和重（OHIGASHI, Kazushige）

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：６０４３４８５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本統治期の台南における文学活動を、台湾人作家を中心に、台湾の古都台南がどのように表象されたのかという観点から研究するものである。日本統治期の台南は、台北や台中ほど文学活動が盛んではなかったが、台湾の歴史が凝縮された古都、台湾人が人口の多数を占める街として、独自の文学運動が展開された。本研究では、日本語で執筆した呉新榮・楊熾昌ら、中国語で執筆した荘松林ら、さらに戦前から戦後にまたがって活動した王育徳・葉石濤らの文学活動や民俗研究について研究した。本研究では、文学による台南表象を、当時の歴史的な文脈と照らし合わせつつ研究し、同時にこの作業を通して、周辺からの文学史の再考を試みた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to examine the representation of Tainan, the oldest city in Taiwan, by Taiwanese writers in Japanese and Chinese. The literary activities in Tainan were not so active as in Taipei or Taichung, but Tainan is the most historical city in Taiwan and the majority of the population in Tainan was Taiwanese during the period of Japanese Rule. As a result, the activities in Tainan were original and unique. Goo Sin-ing and Yang Chi-chang wrote many kinds of literature depicting Tainan in Japanese, while Zhuang Songlin wrote in Chinese, and Ong Iok-tek and Yeh Shih-t’ao wrote in both pre-war and post-war era. I traced and inspected the literary history of Tainan, at the same time rethought the concept of literature in the mainstream of Japanese modern literature.

研究分野：日中比較文学

キーワード：台湾文学　比較文学　日本文学　中国文学　文学一般

１．研究開始当初の背景

台湾南部の中心都市台南は、1990 年代の民主化以降、台湾ナショナリズムのメルクマールとなる都市として、研究が盛んに行われてきた。「南瀛文化叢書」「南瀛庶民生態叢書」などの研究シリーズが続々と刊行され、資料の整備も進んだ。また現地では、研究代表者も 2 度の参加経験を持つ「南瀛研究国際学術研討会」が開かれるなど、新たな研究が続々と展開されている。

近年は日本統治期の文学活動についても研究が進んでいる。台南の文化機関等から、『呉新榮選集』『呉新榮日記全集』『劉吶鷗全集』『王育徳全集』『葉石濤全集』など、日本統治時代の主要作家の全集や日記の刊行が相次いだ。また当時の新聞雑誌についても、中国語雑誌『三六九小報』に加え、日本語文学の拠点だった地元新聞『台南新報』『台湾日報』も復刻された。

研究代表者は 1999 年から 2 年間台南に滞在した経験があり、2000 年代の後半以降、滞在経験を生かして台南文学研究を進めてきた。2011 年以降の 3 年間、科研費の助成を受けて、日本統治期の台南文学研究に専念し、日本人作家を中心に研究した。その成果は拙著『台南文学‐日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』(関西学院大学出版会、2015 年 3 月）にまとめた。

また、日本人作家の研究と並行して、台湾人作家の研究にも着手し、呉新榮・楊熾昌について、計 2 篇の論文を発表した。

2015 年度からは台湾人作家の研究に重点を移して研究を継続したいと考えた。

２．研究の目的

本研究では、日本統治期の台南文学のうち、拙著『台南文学‐日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』（関西学院大学出版会、2015 年 3 月）にまとめた日本人作家たち、及び先行して研究論文を発表した呉新榮・楊熾昌以外の、台湾人作家による活動について研究を進めた。

主要な研究対象として、郭水潭ら塩分地帯の詩人たち、李張瑞ら風車詩社の詩人たち、中国語で文学活動を行った荘松林・趙櫪馬・張慶堂たち、台南の日本人文学者たちから薫陶を受けた、王育霖・王育徳兄弟・葉石濤らを設定し、台南と直接関わる創作活動について研究を進めた。

台湾人作家たちについて研究することで、日本人作家たちが台南に投げかけた視線を相対化し、より多層的な文学史を描きだす作業を行った。

３．研究の方法

日本統治期の台南における文学活動は多元的である。日本語に対し中国語文学という区分、本島人（台湾人）に対し内地人（日本人）による文学という区分、台南在住者に対し旅行・訪問者という区分がある。また日本統治期の台南を扱う場合にも、オランダ・鄭氏政権・清朝時代における台南表象や、光復（中華民国による台湾接収）後の台南における文学活動も視野に入れる必要がある。

研究代表者がこれまで従事してきた比較文学の研究手法は、台南表象の多面性・多元性に分け入る際に、有効な方法になると考えた。

本研究では、日本統治期の台南文学のうち、これまで研究してきた日本人作家による文学活動と対比する形で、台湾人作家の文学活動を研究した。台南と直接関わる創作活動のみならず、間接的に台湾文学と関わる昭和・植民地・外国文学の資料も押さえつつ、彼らの創作活動全体に検討を加えた。

さらに、中央の文壇との関係を視野に入れ、台南文学史という植民地の地方文学史・マイナー文学史を記すことによって、中央のメジャー文学史を相対化することを目指した。

単に台南を扱った著名な作家や文学作品を論じる地方文学史ではなく、中央の文壇に対する問いかけとなるような、正統の文学史やキャノンとは何かの再考を迫る文学史の構築を目指した。

４．研究成果

日本統治期の台南における、台湾人作家による文学の研究では、以下の論文を発表、成果をあげることができた。

(1)「平地先住民族の失われた声を求めて‐日本統治下の台南における葉石濤の考古学・民族学・文学」

：戦後の台南を代表する作家である葉石濤は、戦前台南の旧制中学生だったころに考古学同好会に加わり、かつて台南周辺には平埔族が居住していたことを知る。

1930 年代の台南では、前嶋信次・國分直一らが失われたと考えられていた平埔族を求めて探索を行っており、刺激を受けた葉石濤も平埔族探訪を行った。1980 年代に入り台湾の民主化や本土化が進む過程で、平埔族の文化が見直され、葉石濤は平埔族の女性を主人公とした小説を書く。

本論文では、葉石濤の戦後の文学活動に、戦前の日本人による台南研究が遠く響いていることを論じた。

(2)「植民地の地方都市における「文壇」と「文学」‐日本統治期台湾・台南の台湾人作家たち」

：台湾は戦前の 50 年間日本による植民地統治を受け、国語として日本語が浸透した。植

民地の地方都市だった古都台南も例外ではなく、日本語による文学が日本人・台湾人作家によって生まれたが、台湾人の活動には中国語・台湾語を用いたものもあった。
　日本語を用いた台湾人作家は、東京留学などを経験し、中央文壇の影響を受ける一方で、長く台湾の首府だった台南という土地と対話しながら文学活動を展開した。また中国語を用いた作家には、厦門での留学を経験し、北京や上海の文壇から影響されつつ活動した者や、旧文学の伝統を汲みつつ台湾語で創作した者もいた。
　本論文では、日本統治期の台南における台湾人作家の活動を、「文壇」や「文学」の概念に留意しながら論じた。

　上記の 2 篇以外に、国際シンポジウム「台湾人が歩んだ民主化・本土化の道‐台湾民主化運動の 40 年」では、フルペーパー論文「一九八〇年代以降の台南における日本統治期台南文学の発掘」を提出した。
　同じく国際シンポジウム「台日「文学与歌謡」国際学術研討会」でも、フルペーパー論文「王育徳の台湾語事始め‐「歌仔冊」と「歌仔戯」」を提出した。

　また、雑誌論文・学会発表以外に、関連する複数の文章を公表した。

①大東和重、台南の詩人たち‐植民地の地方都市で詩を作る、詩と思想、第 3 巻第 370 号、2018、pp.12-15

②大東和重、自伝・回想録解題：張良澤『四十五自述‐我的文学歴程』（台湾出版社、1988 年）、中国文芸研究会会報、第 430 号、2017、pp.8-9

③大東和重、詩人たちの風車がふたたび廻る‐古都・台南の新しい文学運動、映画「日曜日の散歩者‐わすれられた台湾詩人たち」パンフレット、太秦株式会社、2017、pp.4-5

④大東和重、自伝・回想録解題：呉新榮『呉新榮回憶録‐清白交代的台湾人家族史』（前衛出版社、1989 年）、中国文芸研究会会報、第 426 号、2017、pp.8-10

　以上の成果をまとめると、

・本研究において論文化した、台南の文壇と葉石濤についての、計 2 篇の論文

・国際シンポジウムで提出した、王育徳と台南文学研究史についての、計 2 篇のフルペーパー論文

・本研究を開始する前に論文化していた、呉新榮と楊熾昌についての、計 2 篇の論文

があり、さらに、まだ公表するに至っていないが、研究を進めてきた、

・荘松林を中心とする台南の中国語文学についての、計 1 編の論文

がある。これらの研究成果を集大成して、五人の台湾人作家を論じた研究書、（仮）『台南文学‐日本統治期台湾・台南の台湾人作家群像』を 2018 年度中に刊行する準備を進めている。

　上記の研究を進める上で、日本統治期の台南文学と関わる資料や研究書を購入した。ことに、台湾文学を論じる上で基本となる資料や、台南文学を比較文学的に論じる上で必要となる書籍を購入することができた。これらの資料については今後も継続して分析を進めたい。
　また、年 1 回の現地調査を計 3 回行った。台南の台湾文学館や台南市立図書館等で、関係する資料の調査・収集を行ない、台南文学と関わる資料や書籍を閲覧できた。現地の図書館のみが所蔵する資料・書籍も多く、成果があった。さらに現地の文学研究者と意見を交換するなど、大きな収穫があった。今後もこれらの資料や成果を生かした研究を継続したい。

　上記の研究以外に、研究題目と関連する映画パンフレットの監修、及び研究集会を開催したことも、成果の一つと考えている。
　研究対象の一人、楊熾昌が 1930 年代に結成した、台南のモダニズム詩人の団体「風車詩社」を描くドキュメンタリー映画、「日曜日の散歩者‐わすれられた台湾詩人たち」が、2015 年に台湾で公開された。日本では 2017 年に公開された。
　研究者代表者は日本配給の監修を行い、計 36 頁のパンフレット制作に関わった。このパンフレットには、研究代表者の「詩人たちの風車がふたたび廻る‐古都・台南の新しい文学運動」以外に、「風車詩社」の解説、主要人物の紹介、監督インタビュー、台南についての紹介、年表などを収めており、資料的な価値も高い。
　さらに、映画の上映、及び関連発表を行う研究集会、企画「映画「日曜日の散歩者」と風車詩社」（中国文芸研究会夏期合宿、立命館大学・花園会館、2017 年 8 月 28 日～30 日）を開催した。上映のみならず、映画「日曜日の散歩者」の監督を招いての座談会、風車詩社に関する 4 人の研究者による発表会を行った。
　研究代表者は企画・運営者として関わり、研究課題と関わる大きなイベントとして行った。この研究集会も成果の一つとして記しておきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 大東和重、平地先住民族の失われた声を求めて‐日本統治下の台南における葉石濤の考古学・民族学・文学、外国語外国文化研究（関西学院大学法学部外国語研究室）、査読無、第 17 号、2017、pp.264-282

② 大東和重、植民地の地方都市における「文壇」と「文学」‐日本統治期台湾・台南の台湾人作家たち、文学（岩波書店）、査読無、第 17 巻第 3 号、2016、pp.180-197

〔学会発表〕（計 6 件）

① 大東和重、一九八〇年代以降の台南における日本統治期台南文学の発掘、国際シンポジウム「台湾人が歩んだ民主化・本土化の道‐台湾民主化運動の 40 年」（台湾文化光点計画）、2017 年 6 月 25 日、大阪大学

② 大東和重、日本統治期の台南における台湾人作家の文学活動‐王育徳と葉石濤、台南文学の継承と展開、中国文芸研究会例会、2017 年 3 月 26 日、同志社大学

③ 大東和重、書写在遠離中央文壇的辺陲‐殖民統治下台南写作者的処境、第二届文化流動与知識伝播‐台湾文学与亜太人文的多元関係国際学術研討会、2016 年 6 月 25 日、台湾・国立台湾大学台湾文学研究所

④ 大東和重、王育徳の台湾語事始め‐「歌仔冊」と「歌仔戯」、台日「文学与歌謡」国際学術研討会、2016 年 6 月 4 日、台湾・国立台湾文学館

⑤ 大東和重、平地先住民の失われた声を求めて‐日本統治下の台南における葉石濤の考古学・民族学・文学、輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム「文化翻訳／翻訳文化」（東アジアと同時代日本語文学フォーラム、2015 年 11 月 14 日、台湾・輔仁大学

⑥ 大東和重、台南文学‐日本語文学の一つの経験、日本比較文学会関西支部例会、2015 年 7 月 11 日、近畿大学

６．研究組織
(1)研究代表者
大東　和重（OHIGASHI, Kazushige）
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号：60434859

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）